

「大腸がん術後地域連携パス」にご協力いただける先生へ

1. 対象患者について

大腸がん術後地域連携パスの対象患者さんは、原則として以下のすべてを満たす方と
しています。

- ・ 大腸がん治癒切除術後 ステージⅠ、ステージⅡ、ステージⅢ
- ・ 告知済み
- ・ 退院前の検査で異常なし

2. 診療していただく時期

退院後、1ヵ月程度を基本としています。

3. かかりつけ医の先生の初回診療日の確認(予約)

患者さんから「連携パス」導入の同意が得られれば、担当者から初回診療日の確認(予約)
の電話をさせていただきます。予約が必要な場合は、予約日時をお知らせください。

4. かかりつけ医の先生の初回診療時と毎月診療時

初回診療時には、患者さんに以下のものを持参していただきます。

- ・ 大腸がん術後地域連携パス(医療者向け)
- ・ 診療情報提供書
- ・ その他の資料一式

毎月診療時には、投薬と可能な範囲での検査等をお願いします。

なお、化学療法パスを利用される場合には、①パスの使用に先立って、必要に応じて、当
該製品の担当MRより情報提供を受けて下さい。②採血データは一両日中にチェックをお
願いいたします。

化学療法の対象であるステージⅢの患者さんは、6ヶ月間は化学療法のパスを用い、終了
後は術後フォローのパスを用いますので、結果的に2つの医療者向け連携パスを持ってい
ただくことになります。

また、患者さんには「連携パス手帳」(大腸がん用)をお渡しし、自己チェックで気になること
や日常の健康管理で気になることがあれば、かかりつけ医の先生に相談するよう伝えてお
りますので、よろしくをお願いします。

5. 大阪医科大学附属病院受診の前に

大阪医科大学附属病院定期受診前の診療時には、可能であれば診療情報提供書を記載
していただき、患者さんにお渡しください。

6. バリエーションと対処法

バリエーション		対処法
再発が疑われるとき	症状がなく、差し迫った生命の危険がないと思われるとき	2週間をめぐりに消化器外科受診
	症状がある、または差し迫った生命の危険があると思われるとき	電話連絡ののち消化器外科あるいは救急外来受診
腸閉塞やその他の合併症	症状がなく、差し迫った生命の危険がないと思われるとき	翌日以降に消化器外科受診
	症状がある、または差し迫った生命の危険があると思われるとき	電話連絡ののち消化器外科あるいは救急外来受診

7. その他

- ・ 投薬については、基本的にかかりつけ医の先生にお願いしております
- ・ 投薬間隔はかかりつけ医の先生のご判断でお願いします(できれば1～3ヶ月毎、抗がん剤は2～4週間毎)
- ・ 副作用等が疑われるときは、先生のご判断で適宜、投薬の中止・再開をしていただいて結構です
- ・ 抗がん剤(ユーエフティ/ユーゼル)の休薬・再開の判断に迷われるときは外来化学療法センター(内2501)にご相談下さい
- ・ 投薬終了後の通院間隔はかかりつけ医の先生のご判断でお願いします(できれば3～6ヶ月毎)
- ・ 大阪医科大学附属病院での定期受診は5年目までとしています
- ・ 定期受診日以外でも必要があれば大阪医科大学附属病院の受診を患者さんに案内してください

8. お問い合わせ先

大阪医科大学附属病院 電話 072-683-1221(代表)
消化器外科 (内2341)
外来化学療法センター (内2501)